

若き牧場主、羊とうさぎで秋田を盛り上げる

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



あきた牧場
(秋田市)

代表 武藤 達未

経営概況

飼養頭数 | 羊:80頭、うさぎ:200羽、山羊:17頭
施設等 | 畜舎2棟、放牧地2ha
構成員 | 2名
販売先 | 飲食店等



あきた牧場

北海道からやって来た一人の若者が、自然豊かな秋田市河辺岩見に新しい牧場をつくりました。秋田に羊を根付かせたいと奮闘していた武藤さんは、秋田で生まれたジャンボウさぎの生産が少なくなっていることを知り、「羊とうさぎで秋田を盛り上げたい。」との思いから、自身の牧場で一生懸命育てています。

▶ きっかけ

北海道で羊牧場を経営する家庭で育った武藤さんは、大学進学のため秋田に来ました。大学4年生の時、羊の毛刈りから作品づくりまで行う「つむぎサークル」を設立したことをきっかけに、「秋田で羊を育てたい。」と思うようになりました。



●「つむぎサークル」で制作した作品

大学を卒業後、大仙市の農場に就職し飼育のノウハウを学んでいた時、「ジャンボウさぎ(日本白色種の秋田改良種)」に出会い、このうさぎが僅かしか飼育されていないことを知りました。

「羊とうさぎで秋田を盛り上げたい。」との思いから、令和3年6月に武藤さんは、秋田市に「あきた牧場」を立ち上げました。

▶ 取組

牧場の場所は、大学生時代に虫や魚の生態調査のため通った土地勘のある秋田市河辺岩見に定め、農地中

間管理機構を通じて借りた1haの農地に2棟のビニールハウスを建て、羊とうさぎの食肉生産を目指すことにしました。

牧場設立から3年目となった現在は、羊は成長が早く肉付きが良いサフォーク種や希少種で茶色の柔らかな毛が特徴のマンクス・ロフタン種(委託)など合わせて80頭と、ジャンボウさぎが200羽になり、将来は羊を100頭、うさぎを500羽に増やす計画です。

出荷先は、県内の飲食店が主ですが、今は引き合いが多く注文に応じきれない状況のため、今後供給体制を整え「秋田の駅前で、秋田の羊肉やうさぎ肉が食べられる店を増やしていきたい。」と話します。



●ビニールハウスの畜舎

また、武藤さんの取組に感銘を受けた山田さんが、研修生として昨年と一緒に作業しています。編み物が得意な山田さんは、羊の毛を加工から販売

まで行う羊飼いを目指しているとのこと、武藤さんとは話が合います。



山田さん(左)と武藤さん

▶ これから

繁殖から肥育まで行う武藤さんですが、日本ではマイナーな羊は牛や豚等のメジャーな家畜とは違う悩みがあるそうです。例えば、国内には羊専門の市場が無く、生産も北海道に偏っているため、消費者の国産羊肉に対する認知度が高まりにくい状況です。また、人工授精の技術も海外のように普及しておらず、生産者だけの努力では解決が難しい問題が多くあるそうです。

武藤さんは、「今後は、飼養頭数を増やし、レストランへ直売することや加工場を設置しソーセージなどを製造・販売まで手掛けることにより、新たな羊肉の需要を開拓していきたい。」と、意気込みを語ってくれました。

(●印写真:あきた牧場提供)

